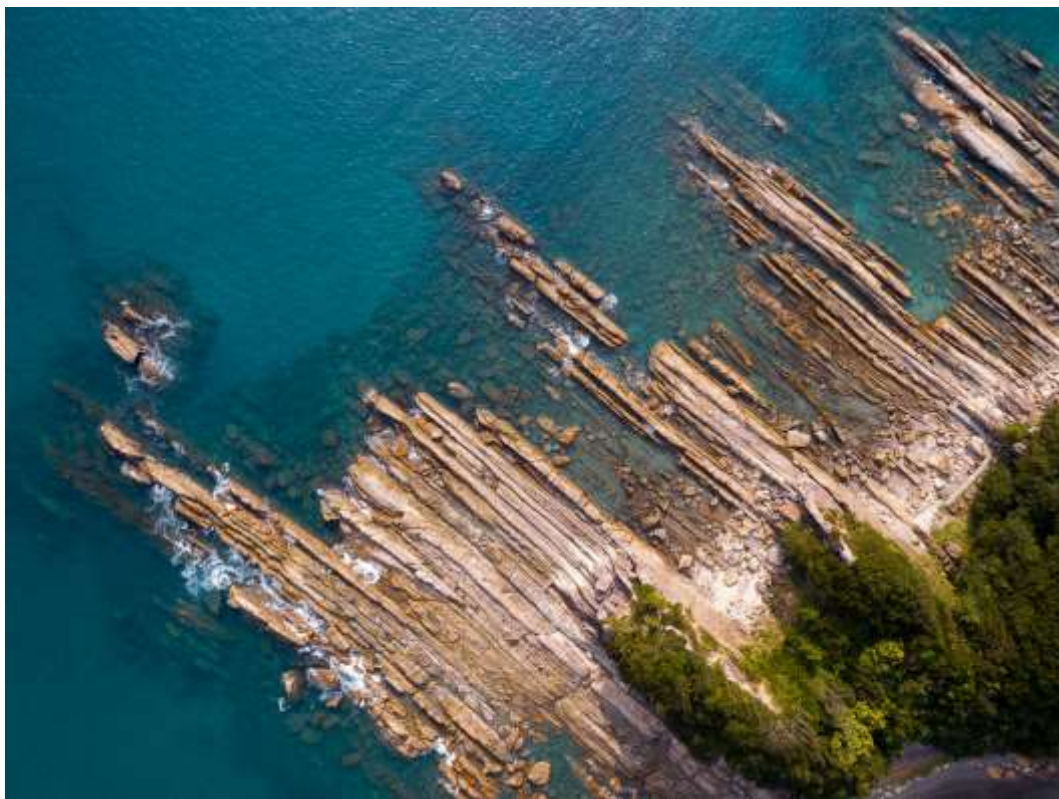


土佐清水ジオパーク周遊促進計画



土佐清水ジオパーク推進協議会

2022 年 3 月

目次

はじめに.....	2
第1章 計画の概要	3
本計画の目的	3
計画の位置づけ.....	3
土佐清水ジオパークにおける観光の在り方	4
第2章 土佐清水ジオパークの現状と課題.....	5
土佐清水ジオパークでの観光の状況.....	5
入込客数.....	5
来訪者の動向	6
ジオツアー販売状況.....	7
ジオツーリズムを取り巻く状況.....	7
ジオパークとしての可視性	8
周遊のための移動手段	9
土佐清水ジオパークまでの移動手段.....	9
エリア内での移動手段	11
各サイト・主な見どころ.....	14
観光利用が可能な主なサイトや見どころ.....	14
1 足摺岬花崗岩体	15
2 三崎層群	21
3 市街地.....	24
4 その他.....	26
第3章 周遊促進のための施策	29
周遊のターゲット	29
周遊のテーマ	29
周遊促進のための可視性の整備.....	29
VI（ビジュアルアイデンティティ）	30
表示物のフォーマット	36
周遊ルートの提案	40
周遊促進の取り組み.....	46
エリア内での消費拡大のための取り組み.....	51
計画の進め方	53
事業の評価手法.....	53
巻末資料	54

はじめに

土佐清水ジオパークは 2021 年 9 月 25 日に日本ジオパークに認定された。エリア内の地球科学的価値やこれまでの活動が一定評価された。しかし、審査では課題や改善事項が示され、特にエリア内の「ジオパーク」の可視性について指摘された。

エリア内のジオパークに関わる案内看板の整備は十分ではなく、ここがジオパークであることや、どのようにジオパークを楽しめるのかがわかりにくい状態にあるほか、エリアの玄関口となる主要な空港や駅などで「土佐清水ジオパーク」を示すものがパンフレット等しかない。そのため、周遊を促すため、エリア内外で、ジオパークの可視性を確保するよう指摘されている。

今後行われる再認定審査のためだけでなく、ジオツーリズムによる地域の持続可能な発展のためにも、ジオパークを目的に来訪者が容易にエリア内を周遊することができるよう、可視性の確保やアクセスルート等のインフラの整備が必要である。本計画は、来訪者がスムーズにエリアを周遊できるよう、可視性の確保や、周遊ルートについての提案を行い、土佐清水ジオパークの観光地域づくりを行うものである。



第1章 計画の概要

本章では、この計画の目的や位置づけ、ジオパークにおける観光の在り方を明らかにする。

本計画の目的

土佐清水ジオパークでは、2014 年から日本ジオパークを目指した活動が行われ、その中で地質・地形といった「大地の遺産」を活かした「ジオツーリズム」を推進し、ジオガイドの養成やジオツアーの作成、商品化などを行ってきた。また、来訪者がジオパークを目的にエリアを周遊できるようパンフレットやサイト解説板、それらと連動したアプリケーションなどを整備した。このように、ジオツーリズムの推進は徐々に進んでいるが、審査でも指摘されたとおり、ジオパークを目的としてエリアを周遊するには情報やインフラ整備が不十分である。

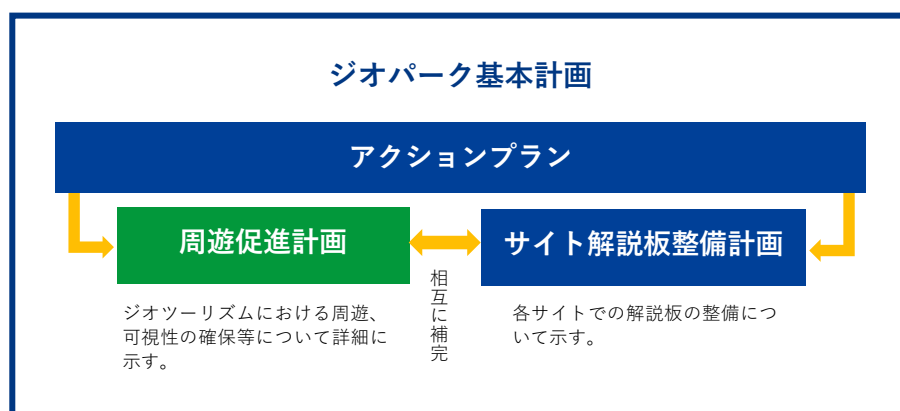
この計画では、土佐清水ジオパークが今後、ジオパークとしての質を向上させ、ジオツーリズムにより地域を持続可能な形で発展させていくため、来訪者の周遊促進に関わるビジョンを明らかにし、今後のジオパークの可視性の確保などにおける方向性を示すことを目的としている。そのため、周遊や当ジオパークの認知度向上や来訪者の利便性向上のため、ジオパークにかかわるビジュアルイメージを一体的に示した「ビジュアルアイデンティティ（以下、V I という。）」や表示物のデザインフォーマットの作成やモデルルートの提案などを行い、地域と連携し、一体的にジオツーリズムによる地域の周遊が促進されるよう、計画を策定するものである。

計画の位置づけ

本計画は、土佐清水ジオパーク基本計画及びアクションプランに基づき作成されるものである。2022 年に策定されたジオパーク基本計画とアクションプランでは、ジオツーリズムに関わる施策や 2021 年度の審査指摘事項への改善事項が掲げられている。本計画は、これらに示されている「可視性の確保」や「周遊促進」に関する事項を詳細に補完し、具体的な手法を示すものである。今後、本計画に基づき、可視性の整備やプロモーション等の施策を行っていく。

サイト解説板の整備については、2018 年度に策定した「サイト解説板整備計画」がある。サイト解説板の整備の基本方針などは同計画に基づき行い、当計画では、V I や総合案内表示、周遊プランなども新たに提案することで、相互に補完し、より具体性や実効性を高めていくものとする。

土佐清水ジオパーク周遊促進計画の位置づけ



土佐清水ジオパークにおける観光の在り方

土佐清水における観光振興は「まちづくり」であり、土佐清水にある全ての資源を守り、訪れる人たちにもその価値を伝えていくことが必要である。土佐清水ジオパークでは、ジオパークの理念のもと、「持続可能な観光」及び「責任ある観光」を推進し、大地の豊かさを伝えながら、環境や社会問題への意識啓発などツーリストにとって新たな気づきや発見がある観光地域づくりを行っていく。

観光のスタイルは、コロナ禍を経て、さらに個人旅行が主流となるとともに、持続可能な社会の実現への意識が広まり、自然環境や地域社会に配慮した観光を志す旅行者が増えてきている。また、多様性への理解や包摂的な社会づくりが叫ばれる中、訪れた人誰もが楽しめる観光地域づくりをしていく必要がある。

土佐清水ジオパークでは、これらの時代の流れを汲み取り、ツーリズムによる「まちづくり」や大地の遺産の保全を積極的に行っていく。当計画においてもこれからの観光に必要な視点を汲み取り、反映させ、持続可能な観光地域づくりの一環としてジオツーリズムによるエリア内の周遊を促す取り組みを実施していく。

第2章 土佐清水ジオパークの現状と課題

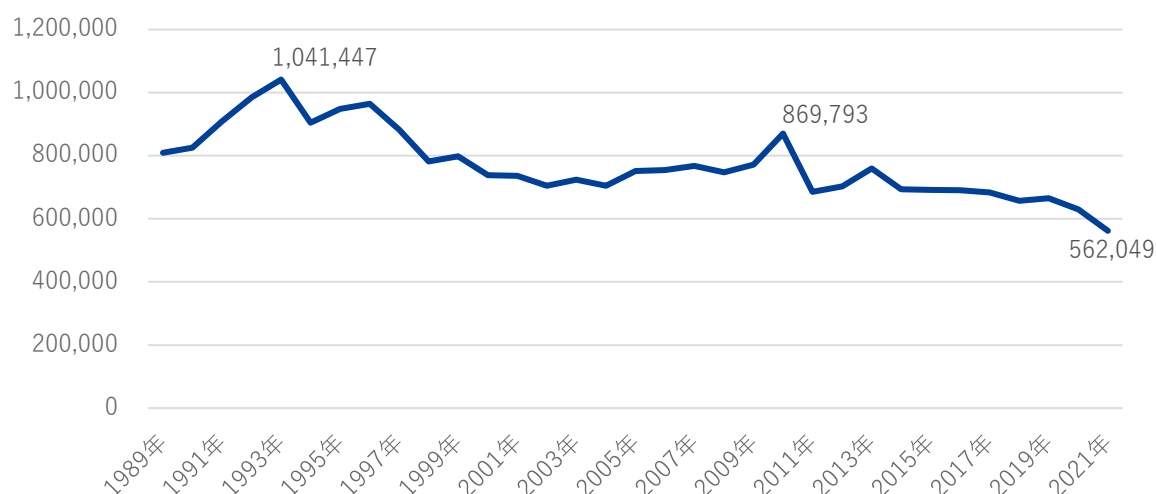
本章では、土佐清水ジオパークの観光やサイトの保全・活用に関わる現状と課題を明らかにする。

土佐清水ジオパークでの観光の状況

入込客数

土佐清水において、観光は主要産業である。海岸線の大部分が「足摺宇和海国立公園」に指定されており、足摺・竜串を中心とした雄大な自然景観と豊かな自然環境を有し、観光地として発展してきた。本市への観光客の入込数は、1973年に約96万人に達した後、1980年代は80万人前後で推移してきた。1988年の瀬戸大橋開通、1992年の高速道本州直結を契機に増加傾向となり、1993年にはピークとなる104万人が本市を訪れている。その後1990年代後半からは減少傾向となり、近年は70万人前後で推移している。2019年から竜串エリアで再開発が行われ、2020年には竜串ビジターセンターうみのわ、足摺海洋館SATOUMIが相次いでオープンした。2020年から新型コロナウイルスの感染拡大が始まったが、施設のオープンに加え、GoToキャンペーンや、ジョン万旅行券等の観光消費拡大のキャンペーンなども行われたことから、63万人と前年比-5.2%と微減に抑えられていた。2021年はコロナ禍が続き、感染拡大によりキャンペーンなども行われなかったこともあり、前年度比-10.8%となり、60万人を割った。

土佐清水市観光入込客数の推移（土佐清水市観光統計）



来訪者の動向

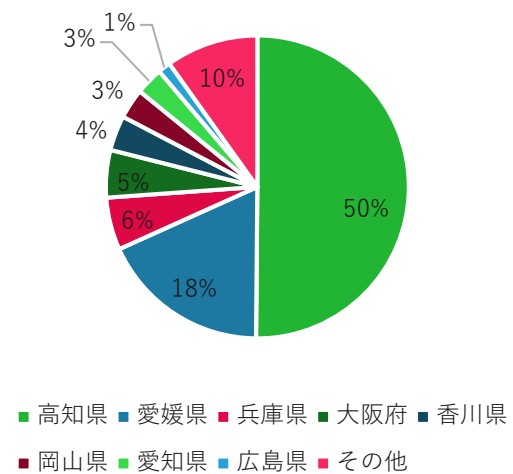
観光客の動向を把握するため、竜串ビジターセンターでは継続して来館者へアンケートを行っている。2020 年 9 月から 2022 年 1 月末までのデータによると、来訪者の居住地や竜串エリアでの滞在時間や観光消費額は以下のグラフのとおりとなっている。期間中はコロナ禍の影響もあり、高知県内や近隣の愛媛県からの来館者が 70% 近く占めている。

また、竜串エリアの滞在時間も比較的短く、80% 以上が 4 時間以内、観光消費額も 80% 以上の人が 4,000 円以下となっている。

竜串ビジターセンターうみのわアンケートにおける来館者の動向

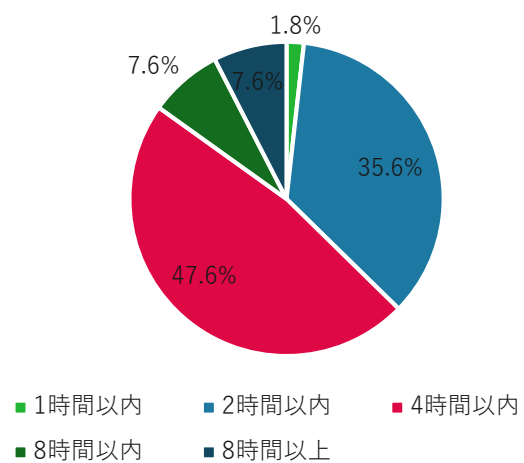
来館者の居住地

都道府県	人数
高知県	188
愛媛県	68
兵庫県	21
大阪府	19
香川県	14
岡山県	12
愛知県	11
広島県	5
その他	37
	375



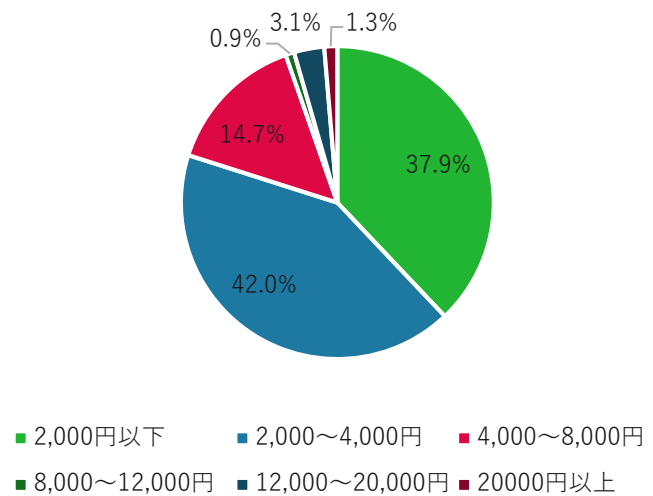
来館者の竜串での滞在時間

時間	人数
2 時間以内	80
4 時間以内	107
8 時間以内	17
8 時間以上	17
1 時間以内	4
総計	225



来館者の竜串での観光消費額

消費額	人数
2,000 円以下	85
2,000～4,000 円	94
4,000～8,000 円	33
8,000～12,000 円	2
12,000～20,000 円	7
20000 円以上	3
	224



ジオツアー販売状況

2020 年 3 月に足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンターがオープンし、それに合わせて、ジオツアーの販売がはじまった。ジオツアーの企画や作成は認定ジオガイドによる自主的な取り組みとして行われている。ジオガイド団体やジオツアー販売事業者とジオパーク推進協議会が「持続可能な観光の推進に関わる協定書」を締結したうえで、協定を締結する事業者が販売するツアーを竜串ビジターセンターの窓口で受付している。しかし、コロナ禍もあり、販売状況は伸び悩んでおり、当初の計画の目標値には及んでいない。

ジオツアー販売実績

年度	件数	人数	販売額
2020	23 件	108 人	159,600 円
2021	19 件	91 人	183,700 円

ジオツーリズムを取り巻く状況

ジオツーリズムとは、地域にある地質・地形などの大地の遺産の価値や地球科学的な事象、またその土地に根付く暮らしや文化などと大地の遺産とのつながりを楽しみながら学ぶ観光のスタイルである。また、ジオパークで行われるジオツーリズムは、大地の遺産を観光に活用し、その価値を高めることで、保全の機運を醸成させるという活用と保全が両立され、「大地の遺産」を守るというジオパークの本質的な目的を達成するものでなければいけない。また、持続可能な地域社会の構築を目指すためには、観光によって生み出される環境や地域社会への悪影響を最

小化し、「持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）」や「責任ある観光（レスポンシブル・ツーリズム）」とも関連付けていく必要がある。近年 SDGs の認知度向上や環境意識の高まりもあり、ジオパークで行う観光については、これらの視点を意識して推進していく必要がある。

ジオパークとしての可視性

ジオパークとして可視性の充実は重要な評価項目であるとともに、来訪者にとってもジオパークを周遊する際の道標として必要なものである。現在、土佐清水ジオパークエリアの一部のサイトにはサイト解説板やジオパークということがわかる標識などが設置されているが十分ではない。また、当ジオパークを象徴するものとして、ロゴマークがあるが、描画や色味が複雑なものとなっており、視認性が低く、汎用性も乏しいため、様々な場面での利用が難しい。

周遊や当ジオパークの認知度向上、来訪者の利便性向上のためにも、ロゴマークなどのジオパークにかかわるビジュアルイメージを一体的に示したビジュアルアイデンティティ（V I）や表示物などを整備していく必要がある。

現在あるジオパーク関連表示物



土佐清水ジオパークまでの移動手段

土佐清水ジオパークまでの移動手段として、自家用車のほか、飛行機、鉄道、バスが挙げられる。起点となる空港は高知空港のほか、松山空港がある。最寄りの鉄道駅は中村駅となっており、主要な空港や駅からは離れているため、公共交通やレンタカーを利用して移動することが一般的である。また、このほか、中村駅や高知駅などからは本州の各都市をつなぐ高速バスも発着している。

これらの主要な交通ターミナルには現在土佐清水ジオパークに関する表示などはほとんどなく、一部でパンフレットなどが設置されているのみである。この点については 2021 年度の審査指摘事項で触れられており、今後、空港や駅などでも来訪者が「土佐清水ジオパーク」が認識できるよう可視性を確保していく必要がある。特に、高知県には当ジオパークを含め室戸ユネスコ世界ジオパークと東西にジオパークがあるため、室戸 UGGp と連携し、県や施設の所有者と協議を行っていく必要がある。

土佐清水ジオパーク位置図



土佐清水ジオパークまでの主要なルート



飛行機

■高知龍馬空港から

飛行機＋公共交通（約 3 時間 30 分～4 時間）

高知龍馬空港＝バス（25 分）＝高知駅＝鉄道（1 時間 50 分）＝中村駅＝バス（1 時間）＝清水プラザパル前

飛行機＋レンタカー（約 2 時間 40 分～3 時間）

高知龍馬空港～高知南国道路～高知 I C～四万十町中央 I C～国道 56 号線～国道 321 号線（2 時間 40 分）～土佐清水ジオパーク

■松山空港から

飛行機＋レンタカー（約 3 時間 20 分～4 時間）

・大洲/西土佐経由（約 3 時間 20 分）

松山空港～松山外環状道路～松山自動車道～大洲 I C～三間 I C～四万十市西土佐経由～土佐清水ジオパーク

・宇和島/宿毛経由（約 3 時間 40 分）

松山空港～松山外環状道路～松山自動車道～大洲 I C～四国横断自動車道/愛南大洲線～宿毛市経由～土佐清水ジオパーク



鉄道

■岡山駅から（約 5 時間 30 分～6 時間）

岡山駅＝鉄道（3 時間）＝高知駅＝鉄道（1 時間 50 分）＝中村駅＝バス（1 時間）＝清水プラザパル前



車

■高知方面から（約 2 時間 30 分）

高知 I C～四万十中央 I C～土佐清水ジオパーク

《参考》高知プレミアム交通 Pass

高知県内の対象エリアの鉄道、バス、路面電車が期間中乗り放題の交通パス。WEB チケットで購入もでき、高知市内や空港から電車やバスを乗り継いでお得に周遊できる。2 日間使えるライト版パスと、3 日間使えるパスが販売されている。

https://kochi-experience.jp/premium_pass.html

高知プレミアム交通Pass

利用できる交通機関

※市町村営バスは利用できません。
〔対象の公共交通機関の詳細は下記
「詳細はこちら」にてご確認ください〕

有効期間

3

日間

～西と東で「対象エリア」を選べる！～

WEST (西) Webチケット ¥12,000 (子ども¥8,000) 紙チケット ¥12,500 (子ども¥8,250) ※税込	EAST (東) Webチケット ¥9,000 (子ども¥4,500) 紙チケット ¥9,500 (子ども¥4,750) ※税込
---	---

高知プレミアム交通Passライト

利用できる交通機関

※鉄道（JR四国、土佐くろしお鉄道）は
利用できません。
※市町村営バスは利用できません。
〔対象の公共交通機関の詳細は下記
「詳細はこちら」にてご確認ください〕

有効期間

2

日間

～西と東で「対象エリア」を選べる！～

WEST (西) Webチケット ¥6,000 (子ども¥3,000) 紙チケット ¥6,500 (子ども¥3,250) ※税込	EAST (東) Webチケット ¥6,000 (子ども¥3,000) 紙チケット ¥6,500 (子ども¥3,250) ※税込
---	---

エリア内での移動手段

土佐清水ジオパークのエリア内での公共交通はバスのみであり、幹線道路沿いは高知西南交通のバスが走っている。本数は1時間1本未満となっているため、時間に余裕を持って計画的に周遊する必要があるが、Google マップでの経路検索に対応しており、旅行者も利用しやすい。そのほか、高知西南交通が運行している周遊観光バス「しまんとあしずり号」もあり、幡多エリアの主要な観光地を巡ることができる。その他、周遊する手段として、レンタカーやレンタサイクル、タクシーなどもある。また、四国遍路の札所も近く、徒歩による移動も一般的である。環境意識の高まりや地域の生活インフラでもある公共交通の維持の必要性を加味し、本計画では、バスやレンタサイクルなどによる移動についても示す。

土佐清水ジオパークエリア内での移動手段



バス

路線バス

運行会社：高知西南交通

中村・清水・足摺・宿毛線（幹線）

エリア内の国道 321 号線沿線と足摺岬をまわる路線で、海岸沿いにあるサイトの多くをまわることが可能。本数は 1 時間に 1 本ほど。行先によっては、終バスも早いため、計画的に利用したい。

足摺岬⇒清水プラザパル前⇒中村駅⇒けんみん病院⇒宿毛駅・（片島）⇒大月・（柏島）⇒清水プラザパル前

Google マップなどで路線検索可能。

高知県内の路線バスで利用できる IC カード「ですか」が利用できる。

※エリア内での「ですか」の購入は以下のとおり

- ・高知西南交通清水バスセンター
- ・路線バス車内

価格は 1 枚 2,000 円（うち 500 円はデポジット）

周遊観光バス しまんとあしずり号

運行会社：高知西南交通

幡多エリアの主要な見どころを回る周遊観光バス。土佐清水ジオパークエリアでは足摺岬と竜串周辺のサイトに立ち寄ることが可能。



▼令和 4 年度の運行スケジュール

<https://www.shimizu-kankou.com/wdp/wp-content/uploads/2022/03/6ffc1070f67cb0512953fe6ca4eb73dd.pdf>



自転車

レンタサイクル（土佐清水市観光協会）

土佐清水市内に設置された 5 カ所のサイクルステーションであればどこでも自転車の貸し出・返却が可能。

貸し出し料金 1,000 円/1 日

電動アシスト付き自転車は 2,000 円/1 日



▼詳細

<https://www.shimizu-kankou.com/experience/rental-cycle/>

土佐清水市観光協会 高知県土佐清水市養老 303

TEL : 0880-82-3155 FAX : 0880-82-3156



レンタカー

エリア内にレンタカー店はないため、高知空港、高知駅、中村駅等の主要ターミナル周辺店舗での手配となる。

中村駅周辺のレンタカー

- ・トヨタレンタカー中村
 - ・レンタカー四万十
-



タクシー

エリア内の主なタクシー会社

- ・有限会社 足摺交通 0880-82-1400
 - ・竜串見残し観光ハイヤー有限会社 0880-85-0331
 - ・有限会社西南ハイヤー 0880-86-0020
-



徒歩

エリア内に四国霊場 38 番札所金剛福寺もあることからお遍路さんも多い。幹線道路のほか、遍路道なども整備されており、サイトの見どころなどもじっくり歩いて周遊が可能。

各サイト・主な見どころ

土佐清水ジオパークはエリアの地質の特性として以下の 3 つのエリアに分けられ、深い海でできた 3800 万年前の付加体の地層、約 1700 万年前の日本列島形成時に浅い海に溜まった前弧海盆堆積物、1300 万年前のマグマ活動でできた花崗岩体と、コンパクトなエリアで様々な地球のダイナミズムを感じ取ることができる。

見どころの多くは、竜串エリアの三崎層群と足摺岬エリアの花崗岩体にある。そのほか、市街地のほか大岐の浜や叶崎など国道沿いにも見どころがある。ここでは、エリアごとにサイトの周遊方法や整備状況を示す。

土佐清水ジオパーク地質分布図



観光利用が可能な主なサイトや見どころ

ここでは、観光利用が可能なサイトや見どころについて示し、サイトへのアクセス、周遊における課題や利用するためのアイデアなどを記述する。

※ジオパークのサイトとして登録されているものは名称の後にサイト番号を示している。

1 足摺岬花崗岩体

足摺岬[G14]

足摺岬周辺は主要な観光地であり、遊歩道や展望台が整備されているため、アクセスはしやすい。現在、足摺岬の展望台の建替えが計画されており、2024年度に新しい展望台が竣工される予定である。地形や地質的な見どころのほか、ヤブツバキ群落も足摺岬の見どころであるため、ジオストーリーに基づく解説など地球科学に偏らないわかりやすい解説を示す必要がある。

【周遊のアイデア】

現在ある展望台から玄武岩包有岩が観察可能。自然サイトである足摺岬の椿群落[E02]のほか、遊歩道沿いにある亜熱帯植物などを紹介する表示が整備されている。地質・地形とあわせて生態的価値を伝えることで、滞在時間を延ばすことができる。



天狗の鼻からの風景



ドローン写真



展望台建替えイメージ図(環境省)

アクセス

足摺岬バス停から徒歩 5 分

白山洞門[G15]

「万次郎足湯」から洞門を見られるほか、遊歩道が整備されており、下りて近くまで行くことができるが、遊歩道まで草が繁茂していることがあるため、定期的な刈り取りなどを行う必要がある。「万次郎足湯」に下の洞門までのルートを示し、施設内に周遊を促す表示やジオパーク関係の展示を行うなど、施設の活用を検討していく。白山洞門周辺のアロウドの浜には、丸石が多く、「ラパキビ花崗岩」の転石が観察できるため、その説明や取り扱いについて示し、ジオパークで活用と保全を一体的に行っていく必要がある。

【周遊のアイデア】

周遊の拠点となる「万次郎足湯」があるため、ラパキビ花崗岩を探してみるなどのアクティビティや遊歩道沿いの熱帯植物などを観察する手軽なジオツアーなどの展開も可能。サイト解説板整備を含め教育や観光でのジオパークでの活用が望まれる。（審査指摘事項 2：白山洞門ジオサイト周辺の整備）



万次郎足湯からの風景



アロウドの浜。ラパキビ花崗岩の転石が確認できる。

アクセス

万次郎足湯バス停から徒歩 5 分

赤磐・白磐・黒磐[G13]

足摺岬花崗岩体の東の端にあり、花崗岩と玄武岩が混じりあっている岩石やマグマの熱で変質したホルンフェルスが観察でき、地球科学的なダイナミズムを感じ取れる場所であるが、観光利用はほとんどされておらず、ルートの整備もされていないため、獣道を下っていく必要がある。また、足摺岬東側駐車場から赤磐・白磐のコントラストが確認できる。

【周遊のアイデア】

現状、ルートが整備されていないため、一般客の観光利用は難しい。景観的にも地球科学的にも価値が高いため、途中の廃屋を撤去し、道しるべを付けるなどルート整備やガイド付きプランを用意するなどし、観光利用を模索していくべきサイトである。また、足摺岬東側駐車場から赤磐・白磐の足摺花崗岩体と付加体の地層の境目が確認できるため、眺望を保ち、解説板等の設置も検討していきたい。



赤磐と白磐



東側駐車場からの眺め



サイトへの途中にある廃屋

アクセス

赤礁バス停より窪津側に 100m 北に行ったところにある海岸への降り口を下り、山道を約 20 分歩く。

※遊歩道がなく、山道を歩くため、単独でのアクセスは危険。

松尾

足摺岬花崗岩体の西側に位置し、花崗岩の磯のほか、自然サイトである松尾のアコウや文化サイトの吉福家住宅などがあるほか、鰹漁や鰹節にかかわる歴史的な見どころが多くあり、当ジオパークのテーマとのつながりも深い。

東西に長い集落の住民の生活スペースの中に見どころが点在している。エリアの観光地化は進んでおらず、トイレや案内板などもほとんど整備されていない。また、集落内の道路は道が狭く、駐車場もないため、注意が必要。

【周遊のアイデア】

地区内を見どころを周遊するためには、駐車場やトイレ、案内看板などが必要になるほか、観光利用を進める場合、集落内に見どころが多いため、地区住民の理解が必要。また、見どころ周辺や道の草刈りなどかなりの頻度で行う必要がある。

サイトとして登録している場所のほか、ホテル私有地の磯などにも地球科学的価値の高い玄武岩包有岩の露頭や観光的価値の高い景観が見られる。住民や事業者と連携して、ジオツーリズムへの活用を検討したい。



女城鼻[G16]



海老洞



サニーサイドホテル下の磯



サニーサイドホテル下の磯で見られる
玄武岩含有岩

《地区内の主な見どころ》

- ・女城鼻[G16] ・海老洞 ・明神崎 ・サニーサイドホテル下の磯
- ・松尾のアコウ[E03] ・石抱きアコウ
- ・吉福家住宅[C02] ・金毘羅宮石灯籠[C03] ・女城神社 ・旦那さんの墓 ・廻り舞台

アクセス

松尾区長場前バス停等下車

白礫[G18]

松尾からさらに西側に位置し、花崗岩の荒々しい磯が広がる。また、江戸時代に白礫沖でカツオの好漁場が見つかったと言われるほか、豊漁の神として祀られる「竜宮神社」があり、歴史的・文化的価値も高い。

釣り客が多く訪れるため、入口にはトイレが整備されている。竜宮神社や磯には遊歩道が整備されているが、ところどころに亀裂などが入る箇所なども見受けられる。また、かつての展望台や灯台へ続く遊歩道はわかりづらい。

【周遊のアイデア】

この場所についての解説看板などがないため、景観や地質的な価値とともに歴史・文化的な価値を伝える必要がある。



ドローン写真



竜宮神社

アクセス

白礫バス停より徒歩 10 分

唐人駄場[G17]

花崗岩が風化侵食されてできた巨石が連なっている。巨石信仰などと結びつき、人工的に作られたという説が広く流布しており、サイトまでの道中にも「パワースポット」という標記も見られる。ジオパークとして、地球科学的根拠を元に正しい説明をするべき場所である。サイトから少し下った場所が園地となっており、トイレや調理場などの設備がある。

【周遊のアイデア】

唐人石があるエリアは石部分だけでなく、周辺の森を歩いて楽しめるようルート整備などができる。と新たな楽しみ方ができるようになる。また、松尾や大浜方面から遍路道を通じてアクセスするルートなどトレッキングルートなども考えられる。



唐人石



唐人石からの眺望

アクセス

唐人駄場入口バス停より徒歩約 40 分

2 三崎層群

松崎・落窪海岸[G07]

三崎層群の東側にあり、教科書に載っている露頭なども観察できるほか、リップルマークや生痕化石が観察できる磯や砂浜などがあり、海岸の様々な表情を楽しめる。落窪海岸から浜益野を經由し、三崎浦まで踏破することが可能である。地層が傾いているため、海岸沿いを歩きながら、時代を追って地層観察が可能。

【周遊のアイデア】

三崎浦や浜益野まで海岸沿いを片道約 3 kmの移動となるため、公共交通を併用すると周遊しやすい。パンフレットや WEB サイトでモデルルートを提案することで、周遊が可能。ルートの発着地となる海岸沿いに、解説板を整備するほか、周遊マップなどを整備すると周遊しやすくなる。

また、時代を追いながら地層観察ができるため、ある程度正確な地質年代が測定され、年代を可視化できるとサイトの価値があがるため、研究者と連携した調査・研究を引き続き行っていく必要がある。



松崎海岸



落窪海岸

アクセス

松崎、中ノ谷橋、もしくは落窪バス停から海岸へ降りる

竜串海岸[G09]、千尋岬[G08]

土佐清水の主要な観光地であり、水族館やキャンプ場、国立公園ビジターセンターなどの施設が集まっている。土佐清水ジオパークの地質的価値である日本列島形成期の地震や津波の痕跡など当時の環境がわかる解像度の高い地層が残されている。

竜串海岸は遊歩道を通して海岸沿いを周遊できるようになっているほか、アクティビティなども充実しており、長時間の滞在が可能であるが、飲食店やお土産物店などの商業施設が少なく、顧客ニーズを十分に満たせていない。竜串海岸から千尋岬がある見残し海岸にはグラスボートが運行されており、渡航が可能。見残し海岸で見られる地層は竜串海岸と時代等も同じだが、より美しいタフォニの構造が観察でき、景観的価値が高い。そのほか、巨大なタフォニの内部に入って写真撮影が楽しめる人魚御殿などの場所もある。

【周遊のアイデア】

2022年度に竜串エリア内でのトクトクの運行が検討されており、周遊の利便性の向上が見込まれる。見残しへのアクセスもグラスボートと陸路を併用できるようになると来訪者の選択肢も広がるが、事業者との協議が必要。

また、近隣の飲食店やお土産物などの情報をジオパークやビジターセンターのWEBサイトなどにも掲載するなど、来訪者が求める情報を積極的に発信していくと、来訪者の利便性も向上する。



竜串海岸ドローン写真



見残し海岸（人魚御殿）

アクセス

竜串もしくはSATOUMI前バス停下車

爪白海岸[G10]

三崎層群の西の端に位置し、新しい時代に河口で堆積した地層が観察できる。竜串のランドマークである海中展望塔の足摺海底館がある。スノーピーク土佐清水キャンプフィールド、レスト竜串跡地から海底館を経て浜辺に出る遊歩道が整備されており、周遊が可能。遊歩道周辺には生痕化石などの見どころもあるが、解説板などは整備されていない。

【周遊のアイデア】

竜串・見残し海岸に導入している位置情報アプリの範囲を爪白海岸まで拡大することで、周辺の見どころを楽しめるようになるため、解説板と同様に検討が必要。また、海岸から海を挟んで弁天島[G11]がある。カヤックなどを使ったツアーや無人島探検イベントなど同サイトの活用も考えられる。



爪白海岸と足摺海底館ドローン写真



爪白海岸露頭

アクセス

海底館前もしくは爪白バス停下車

3 市街地

鹿島[G25]

市街地からほど近い鹿島周辺はトイレや観光商業施設（黒潮市場）があり、広域のルートマップなども整備されている。鹿島はジオサイトにも登録されており、土佐清水の市街地の元となった地層が観察できる。また、漁師から信仰を集める鹿島神社も祀られているほか、島をまわるジオツアーも販売されている。

【周遊のアイデア】

2020 年度に駐車場付近にサイト解説板を整備し、QR コードを読み込み、周辺で見られる植物などの情報を WEB に掲載しているが、利用者は少ない。駐車場やトイレの利用だけでなく、神社の境内へ誘導する仕組みが必要。



ドローン写真



鹿島神社社叢

アクセス

旭町バス停より徒歩約 7 分

市街地周辺

「清水プラザパル前」が公共交通で回る拠点となり、中村駅、足摺岬（西回り・東回り）、大月方面に向かうバスが発着する。飲食店などは中央町商店街や栄町など市街地周辺に点在しているほか、港近くでは、漁師町の雰囲気が色濃く残り、銭湯やスナックなどもある。市場周辺から、市場の水揚げの見学など漁師町の雰囲気を楽しめるまちあるきツアーも行われている。

【周遊のアイデア】

昔からある商店も多く、レトロな雰囲気の喫茶店などがある。Google マップや Instagram などを活用し、来訪者への情報を充実させると良い。また、漁師町の風情が感じられる場所などはWE Bサイトなどで積極的にPR していくと、エリアの情報が充実し、WE Bでの露出につながる。また、地場製品の提供や環境に配慮した取り組みを行っている飲食店や商店などは、積極的に発信し、サポート店制度などの導入なども検討すべきである。



土佐の清水さばツアー



市街地中心部

アクセス

清水プラザパル前バス停下車

4 その他

大岐の浜[E01]

高知市や中村駅から土佐清水ジオパークに入ってきた際、はじめに訪れる風光明媚なスポットで、浜が見渡せる国道沿いに展望スペースが設けられている。しかし、様々な主体が整備した看板が乱立し、中には老朽化して板面が読めないものもあるため、整理が必要。浜の中ほどには駐車場やトイレ・シャワーが整備されており、サーファーの利用が多い。駐車場から浜へ向かう歩道にも離岸流について注意を促す看板やカカツガユについての看板など複数乱立している。老朽化したものなどは統合するなどこちらも整理が必要。また、砂浜の砂の起源について、以前の古い情報が広まっているため、科学的に正しく解説していく。

【周遊のアイデア】

浜辺の風景だけでなく、浜林には生態的な価値のほか、防災などへの活用も研究されている。浜林の散策や砂浜での生き物観察など幅広い楽しみ方を提案すると良い。



ドローン画像



海岸林

アクセス

芝バス停より徒歩約5分

中浜

宗田節の生産が盛んなエリアであり、節納屋見学などができるほか、ジョン万次郎の生家などもあり、黒潮がもたらす文化や歴史を楽しむ。

【周遊のアイデア】

宗田節のアンテナショップ「だしの郷」では、宗田節のオリジナル出汁ボトルづくりや工場の見学が楽しめるほか、近くの中浜大橋からは地区の地形や海成段丘を見ることがもできる。既存の体験メニューなどにジオパークの視点を取り入れた解説をしてもらうなどの連携が考えられる。



中浜大橋からの風景



節納屋見学

アクセス

中浜バス停車

叶崎[G05]

土佐清水の西の端に位置し、西側から入るルートで一番初めに目に入るサイト。付加体のシマシマの地層が観察できるほか、明治時代に建造された灯台も見どころ。道路沿いに展望所、灯台までの遊歩道などが整備されているが、自殺防止の看板などが建っており、野良猫の住処になっているなど雰囲気は良くない。何者かにより、餌やりの行為なども行われているため、対応が必要。

【周遊のアイデア】

景観的な見どころだけでなく、道路沿いのガケには希少な多肉植物ツメレンゲの群落があるほか、叶崎観音堂などもある。集落活動センター下川口家により地域が中心になり、観光の取り組みを行っているため、ガイドツアーの開発などでの連携も考えられる。



叶崎



ツメレンゲ

アクセス

叶崎バス停より徒歩約2分

第3章 周遊促進のための施策

本章では、第2章の現状と課題を踏まえ、周遊促進のための具体的な施策を提案する。

周遊のターゲット

ジオパークの認知度は未だ一般的ではないが、近年、環境や社会への配慮などサステイナブルな価値観が社会全体で広く共有されてきており、地球の歴史を楽しみ、地球への理解を深め、持続可能な発展を目指すジオパークのプログラムが社会により必要性を持って受け入れられる状況になってきている。

土佐清水ジオパークにおけるジオツーリズムや周遊のターゲットは車や自転車など公共交通機関でまわる個人旅行客とし、地域固有の自然や文化、地球科学への興味・関心や環境意識が高いアクティブシニアや家族連れ、欧米豪などの訪日外国人等を想定する。また Web や SNS を用い、情報感度が高く新たな価値観を社会に伝える層を取り込むことで、効果的なマーケティングを実施していく。

周遊のテーマ

エリアの周遊においては当ジオパークのテーマである「一黒潮とともに生きる一漁師が生まれる大地の物語」との関連を意識し、ジオパークだから楽しめる内容を意識したものとする。地球のダイナミズムを体感し、地域固有の歴史や文化に触れることで、地球や地域社会を大切に思う人を増やしていく。

① 地球を体感する



② 地域の文化に触れる



③ 地域と地球を大切に思う

周遊促進のための可視性の整備

エリアの周遊のためには、まず、土佐清水ジオパークというものを印象付けることが必要である。土佐清水ジオパークの特徴や独自性を統一したイメージで表し、理念やメッセージを社会と共有することで、その存在価値を高めていく必要がある。

ここでは、周遊のための可視性の整備にあたり必要な土佐清水ジオパークをイメージするデザインコンセプトを提案する。

VI（ビジュアルアイデンティティ）

土佐清水ジオパークを象徴する色やロゴマークなどを総称して、V I（ビジュアルアイデンティティ）と呼ぶ。

ロゴマークやカラーパレットについて定めるほか、利用ルールなどを別に定める。特別な理由などがない場合は、土佐清水ジオパークで整備する掲示物などは、指定されたロゴマークやカラーパレットを利用する。

ロゴマーク

■旧ロゴマークにおける問題点

土佐清水ジオパークでは、2015 年度の活動開始当初に公募によりロゴマークを作成している。地元の中学生がデザインしたもので、ツバキや魚など土佐清水らしいモチーフがちりばめられた躍動感あふれるものになっている。

旧ロゴマーク



しかし、一方で線が複雑なほか、要素も多く雑多な印象を与える。色調も抑えられたものになっており、視認性が低く、色覚障害などがある場合は特にぼやけた印象になる。また、要素が複雑なことや縦横のアスペクト比が一般的なものではないため、汎用性が低く、様々な場面での利用がし難いという問題点がある。

■新ロゴマークの作成

上記のような問題点はあるものの、ロゴマークができた背景やジオパーク認定までの 7 年間にわたって使用されてきたことから、愛着を持っている住民は多く、認知度も高い。2020 年度に実施したアンケートでは 70% 近くの人々がジオパークのロゴを認識しており、肯定的な意見も多く見られた。

ロゴマークの認知度について（2020 年度土佐清水ジオパーク構想アンケートより）

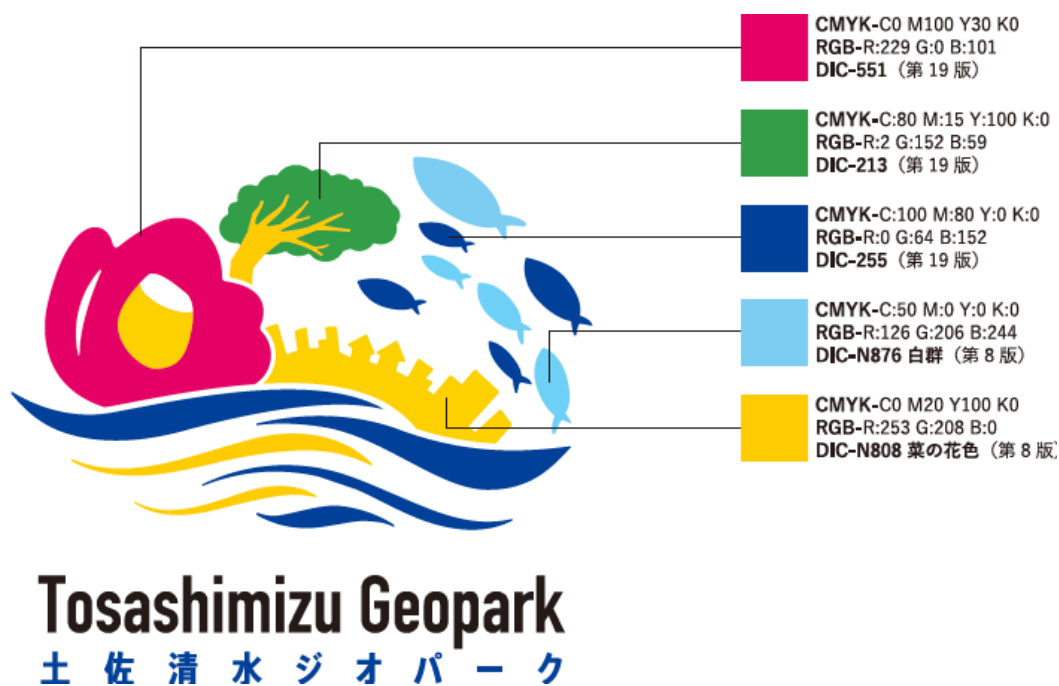


- 理念や描かれているモチーフを含めよく知っている
- まあ知っている
- 見たことはあるがジオパークのものだとは知らなかった
- 見たこともない

そのため、2015 年度から利用されている現行のものをベースに新ロゴマークを作成した。「大地」の要素として地層と黒潮を表す波線を追加することで、アスペクト比を整え、様々な場面で展開しやすくしている。また、要素や線を簡略化し、色調にメリハリをつけたことで、ツバキや木、魚などのそれぞれのオブジェクトを際立たせた。文字部分については、これまで特殊な丸文字を使用し、淡い色味で可読性の低かったものを、シンプルで可読性の高いフォントを利用し、濃い色味とした。これらの修正により、ロゴマークの視認性が高まり、色覚障害などがある場合でもはっきり認識できるようにした。また、旧ロゴマークは、線や光彩などの効果を多用していたため、複雑でぼやけた印象になっていたが、それらをフラット化することで、全体的に現代的なデザインに修正した。また、様々な場面での使用を想定し、グレースケール、単色バージョンの規格を整備した。

基本カラー

大地と黒潮の要素として波線を追加することで、アスペクト比を調整。メリハリのあるカラーリングで視認性を高めた。



グレースケール

白黒での印刷を想定し、グレースケールのものを作成。コントラストをはっきりさせることで、視認性を高めた。



単色

グッズ展開や国立公園保護区域での使用などを想定し、単色パターンを作成。白抜きと塗りつぶしの2パターンを整備した。



Tosashimizu Geopark
土佐清水ジオパーク



カラーパレット

ロゴマークを基に土佐清水ジオパークを象徴する色を指定。土佐清水の大地で躍動する鮮やかな自然を表したカラーリングとした。ジオパーク関連の媒体を作成する際には、できる限り、これらの色を用いたデザインとする。



足摺ツバキレッド

マグマでできた足摺岬の花崗岩体や鮮ツバキの花々をイメージさせる鮮やかなピンク

CMYK-C:0 M:100 Y:30 K:0

RGB-R:229 G:0 B:101

DIC-551 (第19版)

#code-E50065



アコウグリーン

雄大なアコウの大樹や豊かな海岸林をイメージさせる深いグリーン

CMYK-C:80 M:15 Y:100 K:0

RGB-R:2 G:152 B:59

DIC-213 (第19版)

#code-02993B



黒潮ブルー

足摺半島沖を流れる紺碧の黒潮をイメージさせるブルー

CMYK-C:100 M:80 Y:0 K:0

RGB-R:0 G:64 B:152

DIC-255 (第19版)

#code-004098



竜串湾ブルー

サンゴやウミウシのすむ竜串湾の海中をイメージさせる爽やかな水色

CMYK-C:50 M:0 Y:0 K:0

RGB-R:126 G:206 B:244

DIC-N876 白群 (第8版)

#code-7ECEf4



竜串奇岩イエロー

竜串・見残し海岸の奇岩をイメージさせる明るいイエロー

CMYK-C:0 M:20 Y:100 K:0

RGB-R:253 G:208 B:0

DIC-N808 葉の花色 (第8版)

#code-FDD000

展開事例

ここで作成した VI をもとに、土佐清水ジオパークにかかわる物品やグッズなどの展開事例を示す。

封筒



名刺



ステッカー等



表示物のフォーマット

総合案内看板は、エリアの地図や見どころのほか、エリア全体の地球科学的な概要がわかる解説を記述する。また、サイトの景観を阻害することのない自然景観と調和したデザイン、誰もが情報にアクセスでき、利用しやすいものとなるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、日本語と英語の多言語表記としたほか、可読性の高いUD系のフォントを使用している。

また、多くの人に関心を持ってもらえるよう、図やイラスト、写真などを適切に用い、簡潔でわかりやすいテキストで説明することとする。

総合案内看板

エリアの入り口や周遊の拠点となる施設などに設置し、土佐清水ジオパークの概要や見どころなどを紹介したもの。エリア全体の地図を示し、大地の成り立ちやジオパークとしての特徴、見どころや現在地からの経路などを示す。地球科学的な説明はイラストを用い、わかりやすいものとする。



サイト解説板

各サイトに設置されるサイトの地球科学的価値やそれらとのつながりや利用のルールなどを解説したもの。サイトの航空写真やドローンの画像を用い、サイトの全体像を俯瞰し、現在地や遊歩道、避難経路なども可能な場合は表示する。



入口看板

エリアの入り口に設置し、ここからジオパークエリアということがわかるような看板。主要な見どころまでの距離を2ヶ国語で表示し、周遊の利便性を高めるようにした。



周遊ルートの提案

土佐清水ジオパークエリアの周遊において、それぞれテーマ性を持った周遊ルートを示し、ライトな層から地質・地形をより楽しみたいというコアな層のニーズを満たすものを提案する。提案したルートをより深く、安全に楽しむためには、ガイドによる案内があると良いものもある。中にはすでにガイドツアーがあるものもあるが、今後、ジオガイドと協議しながら、提案したルートのガイドが行えるような体制を構築していく。

また、周遊にあたってはエリア内の消費拡大を図るため、ツアーや体験・アクティビティ、食事や特産品などの情報を盛り込んでいる。



足摺半島周遊ツアー

1 らとと土佐清水ジオパーク

ルート 大岐の浜＝約 6km＝市街地＝約 14 km＝臼磔＝約 7km＝足摺岬（宿泊）＝約 14 km＝市街地＝約 11km＝竜串＝9 km＝叶崎



大岐の浜



市街地



臼磔



足摺岬



竜串海岸



叶崎

概要 地質・地形に関心が薄いライトな層も楽しめる主な見どころを路線バスの幹線に沿って巡るルート。多くの見どころが幹線沿いの海岸に点在しているため、バスや車、自転車などでの周遊が可能。

スポット



TEL：0880-83-1103

道の駅めじかの里

新鮮な野菜のほか、宗田節をふんだんに使った料理が食べられる食堂も。店頭で蕁焼きタタキを販売していることもある。

（営業時間）8:30-17:30 食堂は 9:00-14:00

EV 充電スタンド有り(24 時間)

スポット



下川口家直販所

下川口地区の住民が運営する直販所。手作りのお寿司やお惣菜やパンなどが並ぶ。

（営業時間）9:00-15:00（定休日）火・水

TEL：0880-86-0760

2 足摺岬花崗岩体をゆく！ 足摺岬・松尾周辺

ルート 足摺岬＝550m＝白山洞門＝約 4 km＝松尾＝約 3km＝白礫
＝約 4km＝唐人駄場



足摺岬



白山洞門



松尾（海老洞）



白礫



唐人駄場

概要

足摺半島先端部の足摺花崗岩体をじっくり巡るルート。1300 万年前のマグマ活動によりできた荒々しい花崗岩の磯や、日本でここで見られないラパキビ花崗岩や地下深くでマグマがうごめいていた様子がわかる地層などをめぐるコアな層に向けたルート。足摺半島先端部の 5 km ほどの圏内に見どころが集まっているため、自転車を用いると便利。（アップダウンが多いため電動アシスト付き自転車がよい。）

スポット



万次郎足湯

花崗岩由来のラドンを含む天然温泉の足湯。白山洞門を一望しながら、散策の疲れを癒すことができる。

《営業時間》8:00-19:00 《定休日》水曜日 《TEL》0880-88-0988

スポット

赤礫・白礫・黒礫（G13）



足摺岬花崗岩体の東の端にあたり、清水層の堆積岩が高温のマグマに接して変化したホルンフェルス（赤礫）、花崗岩（白礫）、玄武岩質の岩（黒礫）など 1300 万年前、地下深くでマグマがうごめく様子がダイナミックに残されている。地球科学的にも景観的にも価値ある場所であるが、海岸まで下りるルートが整備されていない。今後の活用にあたっては、途中にある廃屋を撤去し、ルートを整備するほか、ガイドツアーや海岸から渡船で渡る方法が考えられる。

3 三崎層群をあるく

ルート

松崎・落窪海岸＝約 3 km（海岸を歩く）＝浜益野＝約 1 km（海岸を歩く）＝三崎浦＝約 1km＝竜串・見残し海岸＝約 1.5 km＝爪白海岸



落窪海岸



落窪海岸



竜串海岸

概要

日本海拡大期の激動の時代に堆積した三崎層群を時代に沿って巡るルート。これまで観光利用されてきた竜串・見残し海岸だけでなく、松崎・落窪海岸を加えたルート。時代によって表情を変える海岸で生痕化石や地震や津波の跡が観察できる。海岸沿いを歩いてまわるため、自転車や自家用車と公共交通を組み合わせるとよい。

スポット



三崎浦

三崎層群の前半部分（松崎・落窪海岸～浜益野～三崎浦）の散策の拠点。三崎浦ニコニコ公園には、駐車場やトイレもあるため、こちらに駐車し、公共交通を併用することで、松崎・落窪方面からの海岸散策が可能になる。周辺にはスーパーやコンビニもあるため、散策のための買出しはこちらで行うとよい。

スポット



竜串湾でのアクティビティ

砂岩が削られてできた複雑な地形に暖かい黒潮が流れ込むことで、サンゴやウミウシなどの豊かな生態系が育まれている竜串湾には海を楽しむアクティビティが充実している。

ダイビングやシュノーケリングのほか、カヌーなども。足摺海洋館 SATOUMI や、足摺海底館では海の生き物がインドアで楽しめる。

ジオツアー



SATOUMI 潮だまりツアー

竜串海岸の地層と潮だまりの生き物が楽しめるツアー。

4-1 漁師が生まれる大地をめぐる ―宗田節のルーツをめぐる―

ルート 松尾＝約 3 km＝白碇＝約 4 km＝中浜



松尾



白碇（竜宮神社）



中浜

概要

土佐清水特産の宗田節は江戸時代、日本一の品質を誇った鰹節にルーツを持つ。紀州から鰹漁や節づくりの技術が伝わった松尾地区や今も宗田節づくりが盛んな中浜地区など足摺半島の西側をめぐる。

スポット



だしの郷 たけまさ商店

宗田節の節納屋が軒を連ねる中浜にある宗田節のアンテナショップ。市内の節納屋の商品が買えるほか、削り節体験や節納屋見学もできる。

《営業時間》 9:00-16:00

《定休日》 火・水

《TEL》 0880-82-9208

ジオツアー



■足摺半島 1 DAY サイクリングツアー

自転車に乗って、足摺半島を暮らすように旅するジオツアー。英語での対応も可能。

4-2 漁師が生まれる大地をめぐる ―清水のまちで清水さばを食す！―

ルート	鹿島＝約 1.4km＝市場＝約 600m＝中央町商店街  鹿島  市場
概要	土佐清水が誇るブランド魚「土佐の清水さば」や漁師町清水を楽しむルート。漁師町ならではの新鮮な魚などのグルメや懐かしい雰囲気のある街並みを楽しむ。
グルメ	 <u>清水さばの刺身</u> 漁があれば、エリア内の飲食店で清水さばを食することができる
グルメ	 <u>ペラ焼き</u> 土佐清水の B 級グルメ。小麦粉と卵を水で溶いた生地を鉄板の上で薄くのばし、ネギやすり身の天ぷら、卵を載せて焼く。
スポット	 <u>えぶりでいきっちゃん</u> 中央町商店街にある直販所。地元産の新鮮な手続きのお惣菜が並ぶ。さばの押し寿司やいももちなど、土佐清水ならではの逸品に出会えることも。
スポット	 <u>土佐清水地魚市場 蕁焼きワールド</u> 土佐清水で獲れた新鮮な鮮魚や魚飯を販売。かつおの蕁焼きタタキの体験や通販もある。
ジオツアー	 <u>土佐の清水さばツアー</u> 漁港や漁師町を散策しながら、清水さばのおいしさの秘密を解き明かすジオツアー。市場や漁具屋さんなどディープなスポットを地元ガイドが案内する。オプションで清水さばのお刺身ランチを付けることも。

周遊促進の取り組み

ここでは、周遊促進のための具体的な施策について示し、目標値の設定が可能なものは、具体的な数値を示す。

表示物などによる可視性の確保

2021 年の審査で改善事項として可視性に関する指摘が多くなされた。表示物は建てるだけでなく、景観やユニバーサルデザインなどにも十分配慮する必要がある。また、サイト解説板などの内容には住民や周辺事業者の意向などを取り入れたものになるよう、適宜ワークショップなどを開催しながら進めていくほか、地球科学的特徴をわかりやすく解説したものになるようにする。また、これらの表示物と連動した位置情報アプリなどの導入や拡充についても検討していく。

◆総合案内看板の整備

現在、当エリアにはジオパークの概要や見どころを示した総合案内看板の設置はない。総合案内看板設置の候補地として、「竜串ビジターセンター」のほか、以下が候補としてあげられる。

- ・道の駅「めじかの里」
- ・鹿島公園駐車場
- ・足摺岬市営駐車場
- ・足摺岬駐車場
- ・足摺岬東側駐車場

中でも、道の駅は土佐清水ジオパークのほぼ中央、市街地から竜串海岸へのルート途中にあり、2023 年頃にリニューアルされることもあり、多くの人出も見込めることから、設置に向け、関係者と協議を行っていく必要がある。また、足摺岬も展望台の建替えなどの再開発が行われることもあり、それにあわせてジオパークの総合案内看板の設置を検討し、2024 年度までにエリア内 2 ヶ所以上の整備を目指す。

取り組み	目標値	備考
◆総合案内看板の整備	2 ヶ所以上 2024 年度までに整備	審査指摘事項 3、4



総合案内看板（伊豆半島ジオパーク）

◆サイト解説板の整備

サイト解説板については、観光利用が望めるサイトより順次整備を進めていく。特に、様々な主体が整備した看板が乱立しているサイトなどから、設置団体などと協議し、整理していく。整備においては「サイト解説板整備計画」に基づき、進める。

取り組み	目標値	備考
◆サイト解説板の整備	・既存施設の改修（2022） ・新規施設設置計画策定（2022） ・新規施設の整備（2023～）	審査指摘事項 4



サイト解説板（鹿島）

サイト周辺の環境整備

エリア内の可視性だけでなく、来訪者が気持ちよく過ごせるよう、環境整備を行う必要がある。特に、一部のサイトでは類似した看板や老朽化したものが乱立しているほか、遊歩道沿いに草木が生い茂ったり、歩道が老朽化したりしているところもあり、来訪者がアクセスするのに不安を感じるような場所もある。市や観光協会、地域と連携を進め、老朽化した施設の整備撤去や改修のほか、施設のメンテナンスができるよう連携する。

取り組み	目標値	備考
◆大岐海岸展望所の看板整理	2024 年度までに実施	審査指摘事項 4
◆白山洞門の遊歩道、サイト解説板の整備	2024 年度までに実施	審査指摘事項 2
◆市、観光協会、住民等と連携したサイト設備のメンテナンス体制の確立	2022 年度までに実施	審査指摘事項 4



複数乱立する看板類（大岐の浜展望所）

アクセスマートの整備

景観的、地球科学的価値があるものの、これまで観光利用されてこなかったサイトで、特に利用価値の高いサイト（赤磐・白磐・黒磐、松崎・落窪海岸等）のルート整備を行い、多くの人に認知してもらえるよう Web サイトや SNS を通じて情報提供を行い、必要であれば簡易な案内板などをサイトまでのルートに整備する。

また、サイト周遊の際には環境に配慮した公共交通や自転車などの移動手段が選択できるよう、WEB やパンフレット等で周知し、利用促進を行う。さらに、訪問者のエリア内の情報収集を容易にするため、WEB サイトや SNS などでの位置情報を充実させていく。

取り組み	目標値	備考
◆利用価値の高いサイトのルート整備	-	
◆環境に配慮した移動手段の利用促進	-	
◆Web サービス、SNS 等での位置情報の活用	-	

エリア玄関口での可視性の確保

エリアの玄関口となる主要な交通ターミナル（高知龍馬空港、高知駅、中村駅等）において表示物やブース展示などの設置を検討していく。鉄道会社や施設の管理会社、県などとも連携した協議を行い、再認定審査前年の 2024 年度までに可視性の整備を進める。また、高知空港や高知駅、高知県の東西を走る土佐くろしお鉄道の車内などにおいては、当ジオパークだけでなく、同じ県内にある室戸ユネスコ世界ジオパークとともに取り組む必要がある。

取り組み	目標値	備考
◆高知龍馬空港での可視性確保	2024 年度までに実施	審査指摘事項 7
◆高知駅周辺での可視性確保	2024 年度までに実施	審査指摘事項 7
◆中村駅での可視性確保	2022 年度までに実施	審査指摘事項 7
◆室戸 UGGp と連携した整備	2024 年度までに実施	審査指摘事項 7



エリア入口での可視性の確保
(伊豆大島ジオパーク)

交通事業者との連携

エリア内の交通事業者のほか、主要な玄関口にあるレンタカー事業者などと連携し、車内や待

合所などへのパンフレットの設置や広告の掲示などを検討していく。

取り組み	目標値	備考
◆交通事業者との連携 ・パンフレット設置の検討 ・車内広告の掲示等の検討	2024 年度までに実施	

サイト情報の発信

現在、土佐清水ジオパークのサイトの詳細な情報は WEB サイトに掲載されておらず、情報が少ない。そのため、現在あるサイトに関わるデータをサイトに掲載することで、誰もが情報にアクセスできるよう整備していく。また、Google マップなどの位置情報サービスにおいてもサイトを登録し、詳細な解説やアクセス方法などが閲覧できるようにする。

このほか、サイトの詳細を示したサイトごとの簡易な解説パンフレットを整備するなど、来訪者がそれぞれのサイトを知ることができるきっかけを作り出す取り組みを行う。

取り組み	目標値	備考
◆Web サイトへのサイト情報の掲載	2022 年度までに実施	
◆サイト解説パンフレットの作成	2022 年度までに実施し、順次 拡大	

WEB や SNS を活用したマーケティング

現在、土佐清水ジオパークでは公式の WEB サイトや Facebook、Instagram 等の各種 SNS を運用しているが、効果的なマーケティングに活用できていない。WEB サイトにおいては、サイト情報などのコンテンツを充実させ、サーチエンジンの適正化などを行うことで、露出を増やし、PV 数を増加させていくほか、WEB 広告などの導入なども検討していく。

また、SNS については、ジオサイトのモニタリング専用のタグや位置情報を使うことで、観光客参加型のモニタリングを行うなど、観光客が保全をはじめとするジオパーク活動に関わることができるような体制を構築していく。

取り組み	目標値	備考
◆WEB サイトの運用	・ 月間ユーザー数（1500→ 3000） ・月間 PV 数(5,000→10,000)	
◆SNS を活用したモニタリング	2023 年度までに主要なサイ トで試験的に実施し、2024 年 度以降本格実施	

来訪者アンケートの実施

現在、竜串ビジターセンターにおいて来館者を対象に施設や竜串エリアの満足度等のアンケートを実施しているが、当エリア内全体についてのアンケートは行っていない。そのため、当ジオパーク全体に関わるデータが蓄積できていない。今後、主要なサイトなどにアンケートフォームのQRコードを設置するなどアンケートに誘導する仕組みを構築し、データを蓄積していく。また、アンケート回答者にはノベルティを配布するなど、周遊促進とアンケートを一体的に行える体制を構築し、来訪者の動向の把握に努め、周遊促進などのマーケティングに活用していく。

取り組み	目標値	備考
◆アンケート実施体制の構築	2023 年度までに実施	

エリア内での消費拡大のための取り組み

ジオパークで地域経済を循環させるためには、サイトをめぐるだけでなく、エリア内での消費拡大が重要になる。ジオツーリズムによる経済効果を最大限に循環させるため、以下の取り組みを実行する。

事業者との連携

エリア内での消費拡大のためには、事業者との連携が必要不可欠である。まずは、多くの事業者にジオパークのプログラムについて理解してもらい、共感を得られるよう出前講座などを実施し、双方にメリットがある形で連携していく。中でも、大地とのつながりを感じられる特産品や地場産品を使ったメニューを提供する事業者、地球環境に配慮したサステナブルな視点を持った取り組みを行う事業者などとは、連携を深め、ジオパークでの情報発信を積極的に行うこととする。また、連携を深める中で、下に記述するジオパークブランドの認証制度や新たな商品開発を行うなどパートナーシップを構築していく。

取り組み	目標値	備考
◆事業者向けジオパーク出前講座の実施	年2回以上	
◆事業者の情報発信	-	

ジオパークを活用したブランディング・商品開発

当地域では「一黒潮と共に生きる一漁師が生まれる大地の物語」をテーマにしており、これまでも宗田節や清水さばなどをジオストーリーと関連づけて発信し、それらをテーマにしたジオツアーなども実施してきた。社会全体のSDGsへの意識の高まりもあり、ジオパークの考え方を取り入れるメリットも多いことから、地域の事業者と連携し、ブランディングや環境や社会に配慮した商品開発を行っていく。他地域で行われているジオパークブランド認証制度の導入なども検討し、ジオパークを通じたエリア内での消費拡大を図る。

取り組み	目標値	備考
◆ジオパークブランド認証の導入検討	-	



伊豆大島ジオパーク認定ブランド制度



宗田節PR用ポスター

(2021 土佐清水ジオパーク推進協議会事務局)

「食」を発信するプロモーション

当ジオパークではこれまでも地域に伝わるお寿司などの郷土料理を取り上げてきた。「食」は人々の関心が高い分野でもあることから、引き続き、地域の食文化の掘り起こしと発信を進めるほか、地域の食材を使った地産地消や環境へ配慮した取り組みを実施する生産者や飲食店などと連携する。

取り組み	目標値	備考
◆郷土料理の継承と発信	イベントの開催 年1回以上	
◆サポート店制度等導入の検討	-	



地域の伝統食を取り上げたイベント
(2021 土佐清水ジオパーク推進協議会事務局)

新たな周遊ツアーの開発・ジオツアーの販売促進

当計画で示した利用価値の高い一部のサイトの中には、アクセスが困難なものや、ガイドがないと理解が難しいようなサイトもある。(赤碇・白碇・黒碇、松崎・落窪海岸等) それらのサイトを楽しめるよう、ガイドツアーなどを開発するほか、既存のジオガイドツアーについてもWEBサイトでの紹介や事業者向けのモニターツアーなどを行いながら、販売促進を継続して行う。また、ジオガイド養成講座を行い、多様なジオツアーの担い手を確保していく。



ジオツアー
あしづり半島1DAYサイクリングツアー

取り組み	目標値	備考
◆周遊ツアーの開発	-	
◆既存ツアーの販売促進	-	
◆ジオガイド認定者数の増員	22 名→35 名	
◆新規ジオガイド養成講座の実施	2025 年までに 2 回以上実施	
◆多言語対応ジオガイドの増員	1 名→3 名	

計画の進め方

ジオパーク基本計画及びアクションプランに基づき、当計画も実施される。案内板などの表示物を作成する際には、当計画に示したフォーマットを用い、統一感を盛った整備を行うようにする。

また、周遊促進のための各取り組みにおいては、協議会事務局や観光・ビジネス部会やジオガイドや各事業者などと進めていく。

事業の評価手法

本計画はアクションプラン同様、年度ごとに進捗状況を把握し、協議会で評価を行う。また、来訪者アンケートを実施することで、来訪者のニーズや同行を分析し、今後の施策の展開に活用していく。

巻末資料

ビジュアルアイデンティティ

ロゴマーク及びカラーパレット

展開事例

案内板等デザインフォーマット

総合案内板

サイト解説板

ミニ解説板

入口看板

地図等

全体地図